

NPO／GCMの活動報告

主な活動内容

1. GCM15の開催
2. 第6回交流フォーラム開催
3. 脳機能解析応用分科会の設立
4. 医工/産学官連携の推進
5. 物づくり支援事業の推進
6. 機関紙発行

NPO法人広域連携医療福祉システム支援機構
理事長 周藤安造

GCM15の開催

日時:2018年6月9日(土)13:10-18:00

会場:東海大学高輪校舎1203教室

主催:広域連携医療ネットワークシステム研究会(GCM)

共催:NPO法人広域連携医療福祉システム支援機構

実行委員長:東海大学情報通信学部教授 撫中達司

キャッチフレーズ:

「在宅医療・福祉と健康管理支援に向けたNPOの活動」

トピックス:産学交流セッション 4件

シンポジウム

「在宅医療・福祉と健康管理支援に向けて」 7件

参加者:29名

第6回交流フォーラム開催

日時:2018年11月24日(土)13:00-18:05

会場:東海大学伊勢原校舎 3号館2階 3-214教室

テーマ:「2025年医療福祉問題に向けた医工連携の推進」

主催:NPO法人広域連携医療福祉システム支援機構

共催:広域連携医療ネットワークシステム研究会 (GCM研究会)

トピックス:医工文連携に向けた研究交流セッション 13件

招待講演:「情報通信技術(ICT)を基盤とする医工融合による未来医療」横浜国立大学MICTセンター長;河野隆二教授

参加者:40名

脳機能解析応用分科会の設立(1)

発端:

第6回交流フォーラム開催を契機に脳機能解析応用に関わる医工文有志で立ち上げた。

趣旨:

脳機能解析と可視化法の応用について医工文連携及び産学連携で研究交流を始めた。このような研究交流により、新しい知見や臨床応用など研究テーマの発掘を試みる。

メンバー:

慶応義塾大学理工学部田中敏幸教授をリーダーとし、産学20名で構成

脳機能解析応用分科会の設立(2)

経緯:これまで3回開催

第1回脳機能解析応用分科会議事録

1. 日時:2019年2月2日(土)15:00~17:30
2. 場所:東海大学伊勢原校舎3号館2階 3-213教室
3. 出席:13名

第2回脳機能解析応用分科会議事録

1. 日時:2019年3月9日(土)14:30~17:40
2. 場所:東海大学湘南校舎19号館2階205会議室
3. 出席者:15名

第3回脳機能解析応用分科会議事録

1. 日時:2019年5月25日(土)15:00~17:30
2. 場所:東海大学伊勢原校舎3号館2階 3-213教室
3. 出席者:16名

医工/産学官連携の推進(1)

**案件:横浜国立大学未来情報通信医療社会基盤センター(MICT)と
東海大学医学部付属病院との連携推進支援**

経緯:

- (1)NPO活動の一環として横浜国立大学未来情報通信医療社会基盤センター(MICT)河野隆二教授を訪問
2018年6月19日(火)横浜三井住友ビルディング15F
- (2)東海大学病院(灰田宗孝医療技術短大学長他)と河野隆二教授との交流実現
2018年7月25日(水)午後1時30分~4時30分
東海大学病院
- (3)第6回交流フォーラムにMICT河野隆二教授を招待し、講演頂いた。
2018年11月24日 東海大学伊勢原校舎
- (4)地域患者集合型遠隔診断モデル構築について会合(第1回)
横浜国立大学MICT, 東海大学病院、NPOで議論
2019年5月30日(木)横浜三井住友ビルディング15F

医工/産学官連携の推進(2)

案件

NPO法人会員(株)アイ・エム・テーと東海大学病院との連携支援

経緯

- (1) 第6回交流フォーラムで(株)アイ・エム・テー 富板社長より
ポリエステル光触媒繊維について発表。
- (2) これが契機となり、東海大学医学部田中彰先生との交流が
始まり、抗菌・消臭効果が期待できる光触媒繊維を利用した
「シーツ」と「枕カバー」を試作
- (3) NPOが仲介役となり、「シーツ」と「枕カバー」による病室の
臭気軽減の共同研究開始
臭気計測についてはNPOが担当

物づくり支援事業(1)

事業名:在宅ケアシステム

1. 経緯

「遠隔医療システム分科会」と福祉介護施設
「福栄会」の支援を受けて主に独居シニア向
けの「在宅ケアシステム」を試作

2. 機能・仕様

クラウド、ウェアラブルセンサー、AI、VRなどを
駆使し、ヒートショック対策、在宅画像診断、熱中症
予防、在宅リハビリでの転倒防止などが低コストで実現可能

3. 今後

介護福祉施設や病院での臨床応用と臨床評価
倫理委員会の承認後製品化

物づくり支援事業(2)

事業名

多機能可搬型リハビリ機器(らっくん)

1. 経緯
もともと東海大学情報理工学部非常勤講師大友先生開発の「らっくん」の製品化をNPOが支援し、産学・臨床連携を推進している。これまで臨床応用が1例で、症例を増やすことが課題であったが、東海大学健康学部柴田健雄講師の支援を受けて増えつつある。
2. 臨床応用と臨床評価の現状
今年3月に介護施設「つるかめ庵」でリハビリ実験を行い、データを取得することができた。先方の作業療法士にも実験内容を見てもらい、効果があるとの意見を頂いた。現在、4月以降に八王子の仁和会総合病院で実験を行うため、病院側の医師かららっくんのハンドルをカスタマイズ化して欲しいリクエストを頂いており、病院側の理学療法士、作業療法士とも設計・作製を進めている。
つるかめ庵で行った実験データの解析と論文化のための準備も並行して行う予定。
3. 今後の課題
製品化のためには、臨床評価データがある程度収集できた段階で「倫理委員会」で承認を得る必要がある。

物づくり支援事業(3)

事業名

問診票システム

1. 経緯
「脳機能解析応用分科会」で東海大学医学部付属病院
田中彰先生の提案に基づき着手
2. 機能・仕様
PC、タブレット、スマートフォンから、来院前および来院時に、問診票を入力できるようにすることで、診察効率の向上と、患者の健康相談を通して、QOLの向上を図る。
3. 今後
田中彰先生の指導により、(株)アリス、NPOで製品化 & 事業化を検討する。

今後の主な課題

1. 脳機能解析応用分科会
研究テーマの発掘と研究費申請
2. 物づくり支援事業
製品化支援
 - (1) 在宅ケアシステム
 - (2) 多機能可搬型リハビリ機器
 - (3) 問診票システム
3. 産学連携支援
 - (1) MICTと東海大学病院
地域患者集合型遠隔診断モデル構築検討
 - (2) (株)アイ・エム・テーと東海大学病院
抗菌・消臭寝具による病室の臭気軽減研究
4. 機関紙「れんけい4号」発行